



里帰りした後継樹を訪ねて

令和元年に始まったこのシリーズでは、7回にわたって林木育種センター、北海道育種場、東北育種場、関西育種場と九州育種場における「林木遺伝子銀行110番」の取組を紹介してきました。第8弾では、これまでに里帰りした後継樹を訪ね、その現状についてお知らせします。

一つ目は、岩手県滝沢市指定天然記念物「五龍のフジ」(1)です。樹齢が200～300年と推定されるこの5本の大樹は、大空に舞い上がる5頭の龍を想像させるその姿から命名されました。老齢のうえ1本が倒れていたために滝沢村教育委員会(当時)の依頼を受けて平成18年及び19年の4月に滝沢村埋蔵文化財センター(当時)へ里帰りした後継樹(2)は、現在では樹高8m程度にまで成長しています。また、東北育種場内では、後継樹と一緒に増殖した11本が藤棚(3)を仕立てて保存されており、毎年5月頃には美しい花を咲かせて、職員の目を楽しませています。

二つ目は、茨城県日立市立助川小学校の「五代桜」(4)です。明治38(1905)年に日露戦争の勝利を記念して植栽されたこのソメイヨシノは、大正を経て昭和に「三代桜」と命名されました。その後、平成には「四代桜」、令和には「五代桜」と改名されて現在に至ります。助川小学校創立130周年記念事業の一環で発足した「四代桜を守る会」の依頼を受けて平成17年3月に里帰りした後継樹は(5)、樹高9m程度にまで成長し(6)、春には花を咲かせて新入生を迎えています。



「五龍のフジ」: 1 親木(滝沢市教育委員会提供)、2 里帰りした後継樹、3 東北育種場で保存している後継樹
「五代桜」: 4 親木、5 平成期に「四代桜」として里帰りした後継樹、6 現在の後継樹

三つ目は、京都市上京区きゅうどこのごし しょうきやうじもんぜきの旧百々御所宝鏡寺門跡にある「月光椿」(7)、「熊谷椿」がっこうつばきと「村娘椿」くまがいつばき むらむすめつばきです。これらの椿は、それぞれ「月光」、「熊谷」、「村娘」というツバキ品種の古木で、中でも品種「村娘」の原木とされる「村娘椿」は、林木遺伝資源としても貴重です(8)。平成26年3月、3本の椿を後世に受け継ぐために里帰りさせた後継樹は、蕾つぼみをつけるまでに大きく成長しています(9)。「人形の寺」としても知られている宝鏡寺で毎年催されている「春の人形展」では、展示されている貴重な雛人形と由緒ある椿の花と一緒に鑑賞できることもあるそうです。

四つ目は、兵庫県西宮市の「えびすの森のクスノキ」です。1月10日に行われる開門神事福男選かいもんしん じふくおとこびで知られる西宮神社の兵庫県指定天然記念物「西宮神社社叢・えびすの森」にあるこの巨木(10)の後継樹(11)は、平成21年3月に3本が里帰りし、現在では2mを超える高さにもまで成長しています。「西宮神社社叢・えびすの森」では、清掃奉仕作業やこの森の成り立ちや生育する樹木などについて学べる現地説明会(12)を通じて、都市に残る貴重な林である社叢と人のつながりを知る機会が設けられています。

令和元年3月31日現在で、289件の要請があり、222件で後継樹が里帰りを果たしています。後継樹は、林木育種センターや育種場でも保存され、貴重な林木遺伝資源として研究に活用されています。来年度以降も、林木のジーンバンク事業の一環として、高齢や被害等が原因で衰弱した天然記念物、「森の巨人達百選」やこれらに類する巨樹・名木等の中で、特に保存する価値があり緊急性が高いと判断された樹木を増殖して後継樹を現地に里帰りさせるサービス・「林木遺伝子銀行110番」を継続していきます。

(林木育種センター遺伝資源部・織部雄一郎)



「宝鏡寺のツバキ」：7「月光椿」の花、8「村娘椿」の原木、9「熊谷椿」の後継樹
「えびすの森のクスノキ」(石井弘明神戸大学准教授提供)：10 親木、11 後継樹、12 現地説明会

「林木遺伝子銀行110番」の利用については、
森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターホームページの「遺伝資源の収集・保存・配布」
URL <https://www.ftpri.affrc.go.jp/ftbc/iden/index.html> をご覧いただくか、
遺伝資源収集係(林木育種センター Tel.0294-39-7000)にお問合せ下さい。

